

# コロナ禍の マスクに思う

柴田 幹雄 陸自75

世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっている。日本は感染者の数をかなり低いところで抑えている。理由はまだ不明だが、日本人の生活習慣もあるようだ。清潔好きでよく手を洗うこと、花粉症対策でマスクをする人が多く、着用に抵抗感が少ないことなどもあるらしい。国によってはマスクをしていると重病人か犯罪予備軍のように思われ、警戒されるとか。

1月には武漢での感染症のニュースが出て、2月にはクルーズ船乗員乗客の感染が話題になり、日本も対岸の火事といっていられない状況になった。

このころからマスク不足が深刻になり、多くのドラッグストアも入荷待ちという状態で、医療関係者までマスクを求めて走り回る始末だった。買い占め、転売ヤーまで出現した。日本はマスクの80%を輸入に頼り、その約9割を中国一国に依存していた。3月には韓国はマスクの輸出を禁止した。中国は、輸出禁止はしなかったという。しかし国内需要に回すために日本への出荷は激減した。

韓国は日本からホワイト国待遇を外され、ICチップなどの製造資材の一部を日本一国に依存していたことで大騒ぎになった。日本はこれを冷ややかな目で見ていたが、マスクでさえも一国に依存していることの危険性を今回も身をもって実感することになった。ましてや中国は臆面もなく「マスク外交」まで展開した。

台湾では、マスクの生産・出荷を国が管理し、町のどの店にマスクがあるかを示すアプリで、やみくもに店を回る必要がなくなった。韓国では生年月日で、マスク購入できる日と枚数を指定して、買い占めを防止した。日本はマスクについて増産要望のほかアベノマスクと医療関係者への優先配布以外ほとんど何もできなかった。

中国から輸入していたマスクは不織布でできた使い捨てマスクだが、これに限らず一般にマスクは感染予防には効果がないが、他者への飛沫感染を防止自分が感染源にならないための効果はあるという。そうであれば不織布マスクにこだわることはない。アパレル関連ほか数多くの会社が各種の布で、洗えば何度でも使えるマスクを作り始めた。

また早い時期から手作りマスクも登場した。我が家でも、2月末ころにマスクを作ろうと型紙から自作して本体

はできた。ところが考えることはだれも一緒、百円ショップも洋品店も女性の髪留め用のゴムが売り切れて暫く手に入らなかつた。何とか手に入れ自家製マスクで外出している。

中国人も多くの外国人も、今時自分で針と糸でものを縫うというのではないようだ。そういうのは工場のお針子がお手伝いさんがやるものと思っっているとか。日本人は、女性はもちろん男性でも学校で縫物を習うからマスクくらいはできる。ネットを検索するとマスクの作り方や型紙の一例などたくさん出てくる。

また最近是不織布マスク製造機を購入して小企業がマスク製造にとりかかっているという。

マスク不足も政府の力でなく結局民間・個人の力で乗り切るといふ、いつものパターンだった。マスクだからいけれど、安全保障上の有事の場合はそれだけでは困る。緊急事態には平和と独立を守るために、強権発動による個人の自由・権利の制限も必要になる。個人情報保護に配慮しながらも絶対必要な情報は情報開示であろう。不都合な事実もすべて開示してこそ、国民の政府への信頼が醸成され、不自由・不便を耐えることが出来る。